

O1-011

ベビーゲートに関連した傷害を予防する

北村 光司^{1,2)}、山中 龍宏^{1,2,3)}、西田 佳史^{1,2,4)}

産業技術総合研究所 人工知能研究センター¹⁾、
Safe Kids Japan²⁾、
緑園こどもクリニック³⁾、
東京工業大学⁴⁾

【目的】 ベビーゲートは、乳幼児が階段から転落したり、台所に入ることを防ぐための器具であるが、ベビーゲートそのものに関連した事故も発生している。そこで、東京都商品等安全対策協議会で、ベビーゲートに関連した事故の実態、使用実態のアンケート調査、乳幼児の押引力の検証などを行って予防策を検討した。われわれは協議会の委員として活動したので報告する。

【対象と方法】 ベビーゲートに関連した事故の情報は、東京消防庁と消費者庁の医療機関ネットワークの過去5年間の5歳以下の情報を分析した。使用実態調査は、6歳未満の子どもが同居し、ベビーゲートの使用経験がある人1,008人を対象としてアンケート調査を行った。乳幼児の押引力の計測は、9～24か月までの子ども25人を対象に行った。

【結果】 事故例は123例で、ほとんどが6か月から2歳のあいだに発生し、男児が7割を占めていた。状況としては、ベビーゲートが外れた、ぶつかった、挟んだ、つまづいたなどベビーゲートに直接関連した事故が44件、ベビーゲートを閉め忘れた、乗り越えた、ロック解除などベビーゲートを通じた先で発生した事故が79件であった。使用実態としては、設置場所は台所が62%、階段の上が33%、階段の下が18%であった。取り付け方法としては、「つっぱりタイプ」が79%、「ねじ止めタイプ」は7%であった。入手方法としては、新品の購入が80%であった。使用の開始時期は、月齢が7～12か月のときが最も多く、使用の終了時期は2歳が多かった。アンケートに答えた人の中で、子どもがベビーゲートに関連した事故で入院したのは18例であったが、ヒヤリ・ハットの経験まで入れると47%であった。乳幼児の押引力の計測では、押す力の最大値は71.8 N、引く力の最大値は89.4 Nで、引く力の方が大きいことがわかった。

【考察】 安全を確保するための器具であるベビーゲートに関連した事故が起こっており、ヒヤリ・ハットまで含めると、半数の人で危険を感じた経験があった。最も多い「閉め忘れ」に対しては、閉め忘れを防ぐオートクローズ機能や多重ロックなどの対策がある。ベビーゲートの外れに関しては固定方法に問題がある。ベビーゲートを壁面にねじ止めて固定する、つっぱり式製品では固定用カップを使用するなどの対策が必要である。これらの情報を保護者や育児支援者にわかりやすく伝える必要がある。

O1-012

洗濯用洗剤の誤飲リスクの検討—洗濯用洗剤の保管場所の実態調査—

山中 龍宏¹⁾、北村 光司^{1,2)}、西田 佳史^{1,2,3)}

NPO 法人 Safe Kids Japan¹⁾、
産業技術総合研究所²⁾、
東京工業大学³⁾

【目的】 子どもの誤飲事故は、小さいものを摘めるようになる、蓋を開けるなどの細かい動きをできるようになる、といった発達に関連して発生する。誤飲する物体の一つに洗濯用洗剤がある。日本中毒情報センターによると、毎年、衣料用洗剤に関する300～400件の問い合わせがあると報告されている。日本全国で実際に発生した事故は、少なくともこの数十倍は起きていると考えられる。これに対し今まで注意喚起がされてきたが、効果は見られていない。本研究では、具体的な予防策を検討するために、一般家庭での洗剤の保管の実態を明らかにすることを目的とする。

【方法】 未就学児を持つ保護者に対して、洗剤の保管場所、使用している洗剤の種類、洗剤の誤飲事故に関する知識に関するアンケートへの回答と、洗剤の保管場所については写真の提供をウェブ調査で実施した。

【結果】 5日間のウェブ調査で、303人からの回答を得た。6歳未満の子ども的人数は、0歳114人、1歳107人、2歳107人、3歳46人、4歳45人、5歳42人であった。洗濯機を置いている場所は洗面室が94%、洗剤の保管場所は、洗濯機の上（棚の上も含む）42%、洗面台の下25%、洗濯機の横21%の順であった。洗剤を誤飲した場合の健康被害の可能性については、健康被害があることは知っている41.9%、健康被害の事例や程度を知っている37.6%、聞いたことはある13.5%、知らない6.6%であった。洗濯用洗剤の保管場所を決める際に洗剤の誤飲の可能性を考慮しているか（複数回答有）については、考慮しているので手の届かないところに置いている51.5%、考慮しているので子どもから見えないところに置いている18.8%、特に考慮していないが、子どもが洗剤に触る可能性はないと思う16.8%、特に考慮していないので、子どもが洗剤に触る可能性がある14.5%であった。

【考察】 洗濯用洗剤の保管場所として、子どもの手が届かない洗濯機の上が42%と最も多かったが、洗面台の下や洗濯機の横といった子どもが容易にアクセスできる場所に保管している場合も多いことが分かった。洗剤の保管場所は子どもの手が届かないところに置いているが51.5%を占めているが、手が届かない洗濯機の上に保管しているという回答を上回っており、手が届かない位置を誤認している可能性が示唆された。